

## 新垣哲先生旭日双光章受章祝賀会



常任理事 大山 朝賢



新垣哲先生を囲んで：左より新垣先生ご令嬢亀山成子先生、新垣哲先生、大城徹先生、糸数健先生

西武門病院理事長、新垣哲先生の栄えある旭日双光章受章祝賀会が平成22年6月17日(木)、ハーバービューホテルクラウンプラザ(彩海の間)にて行われました。多くの会員や病院関係者の中に先生のお孫さんもお出席されて祝賀会を盛り上げて頂きました。

始めに主催者を代表して宮城信雄沖縄県医師会会長より祝辞が述べられた後、全日本病院協会沖縄県支部常任理事で、浦添総合病院理事長宮城敏夫先生から新垣哲先生の業績が紹介されました。続いて来賓を代表して、奥村啓子沖縄県福祉保健部長のご挨拶を頂き、新垣先生が所属する那覇市医師会の会長で県医師会常任理事の真栄田篤彦先生からご挨拶を頂きました。

その後、県医師会やお孫さんも含めた病院関係の方々から記念品・花束贈呈が行われ、新垣哲先生からお礼のご挨拶が述べられました。

それから新垣善一議長の音頭による乾杯のあと懇親会へ移りました。

会長をはじめ諸先生のご挨拶を掲載します。

### 宮城信雄 沖縄県医師会会長 挨拶



本日ここに、新垣哲先生旭日双光章受章祝賀会を開催いたしましたところ、多くの方々にご参加賜りまして、厚く御礼申し上げます。

新垣先生のご業績は後程詳しくご披露されますが、先生は那覇市医師会・沖縄県医師会役員として県内の救急医療体制の確立を図ると共に、全日本病院協会並びに同協会沖縄県支部の役員として、我が国における病院施設の向上発展を図り社会福祉増進に尽力されたご功績により、栄誉ある章を受章されております。

先生の輝かしいご功績は、私ども会員はもとより県民だれもが等しく認めるところであり、



特に本県の歴史を振り返ってみたとき、先生がこれまで果たしてきた役割はいかに大きなものであったかを改めて認識するものであります。

ここに、先生の永年のご労苦に対し沖縄県医師会を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

さて、皆様ご高承のとおり平成十三年の小泉内閣発足以降、政府が「聖域なき構造改革」と称し、社会保障費を削減し続けてきた結果、医師をはじめとした人材不足を起因とする産科医療、小児科医療、救急医療等の受入不能問題、医療事故の多発、医療機関の倒産などが相次ぎ、今や我が国の医療は崩壊の一途にあります。

そのような中、昨年行われた総選挙によって大勝した民主党は社会保障費の機械的削減を廃止すると共に、医療費をOECD加盟国並に引き上げると明言しているところではありますが、平成22年度の予算編成において、医療費については診療報酬が改定されたものの、実質的なプラス改定にはつながらず経営環境を改善するには至っておりません。

先日の鳩山首相の突然の辞任によって後を引き継いだ菅新首相は先の所信表明において社会保障の充実に取り組むとの決意を示されており、国民の命と健康を守るためにも最優先課題として公約の実現を強く望むものであります。

新垣先生をはじめとする諸先輩方が、これまで長年にわたって築いてこられた地域医療の崩壊を食い止めるべく、我々後進も一丸となって医療行政の進むべき道を正していかななくてはならないと固く決意するものであります。

新垣先生におかれましては、何卒今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県民が希求する安心・安全な医療の構築にお力添え下さいますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、新垣先生の今後益々のご健勝並びにご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

## 業績紹介

**宮城敏夫 全日本病院協会沖縄県支部常任理事**



この度の新垣哲先生 旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は昭和35年3月、昭和医科大学医学部を卒業され、国立世田谷病院でインターンとして1年間勤務された後、昭和36年6月より、現在の県立中部病院の前身である琉球政府立コザ病院にて勤務されました。

そして、昭和43年10月に西武門外科医院を開設されると共に、昭和57年5月、現在地に西武門病院を開設されました。以来、今日にいたるまで42年余にわたり地域医療の向上発展に努めておられます。

開業当初より新垣先生の大腸肛門疾患の手術は定評があり、県内、県外に止まらず、国外からも西武門病院での手術を希望する患者さんが多く、今日に至るまで4万人余の手術を行っているとのこととあります。

そうした数々の症例を経験された先生は、各学会において研究発表を行い、我が国の学術高揚に大きく貢献されております。

またその間、生業に及ぼす甚大な犠牲を厭わず、昭和46年7月から2期4年間、那覇市医師会理事の要職を務められ、在宅輪番当直制度・公設民営急病センター設立、那覇市医師会ガンセンター設立、復帰時における国民皆保険制度への切り替えへの対応、那覇市医師会会館建設などに尽力されました。

中でも、昭和47年の本土復帰に際しては、医療保障制度の急激な変化に制度の受け皿が不十分であったことから、行政側の混乱や、看護師をはじめとするコ・メディカル不足、国民健康保険を実施するにあたっての受診率の上昇、旧那覇病院の事実上の機能停止等、医療の現場にさまざまな混乱をもたらし、特に夜間急病、救急医療は危機に直面し、那覇市医師会が実施していた輪番宅直制度も当番医の辞退が相

次ぎました。

そのような中、新垣先生は担当理事として長年に亘る自身の救急経験を生かし、県・市・那覇市医師会における三者協議会において折衝を重ね、公設民営急病センターの設立に多大な貢献を果たされております。

今日における、救急医療体制の確立があるのも、新垣先生のご尽力によるものであるといっても過言では無く、改めて先生のご労苦に感謝申し上げる次第であります。

さらに、昭和50年12月からは沖縄県医師会理事に就任されると共に、昭和55年4月には副会長の要職に就かれ、沖縄県保健医療協議会員、沖縄県保健医療福祉事業団運営委員、沖縄県医師会国民健康保険組合常務理事・副理事長、沖縄県社会保険診療報酬支払基金幹事、沖縄県地方社会保険医療協議会委員、沖縄県医師会病院部会理事、沖縄県医療審議会委員の要職を歴任されており、6期12年余の長きにわたって県医師会の会務運営、事業推進に尽力されました。

また、先生は昭和60年に全日本病院協会理事に就任、昭和62年には常任理事に就任され、我が国における病院の向上発展とその使命遂行を図り、社会の福祉増進に寄与されております。同協会においては総務委員会、企画室委員会、学術委員会、救急・防災委員会、国際交流委員会を歴任されており、救急委員会においては、東京都私立病院会救急委員会・アジア医師連絡協議会と共同で「病院防災早わかりビデオ」を企画制作し、好評を博しております。

さらに、昭和63年の全日本病院協会沖縄県支部設立の中心的役割を果たされると共に、平成4年には支部長に就任され、各種研修会や学会を多数企画開催し県下の学術向上に貢献されました。

戦後50年の節目にあたる平成7年には、第37回全日本病院学会を学会長として開催しており、同年発生した阪神淡路大震災を教訓に、AMDAの菅波茂代表と合同でシンポジウムを開催しております。

現在も支部長として、長年にわたって県内の病院経営の質の向上に努めると共に、良質、効率的かつ組織的な医療の提供を通して、社会の

健康および福祉の増進を図ってこられました。

また、平成12年に開催された九州・沖縄サミットでは、県外から派遣された警察隊員に対する健康管理のため、全日本病院協会沖縄県支部の協力のもと医師・看護師が派遣され無事成功裏に導かれております。

以上のような数々のご功績が認められ、この度旭日双光章を受章されました。

新垣先生におかれましては、今後も益々ご健勝でご活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。

この度の受章、誠にめでとうございます。

## 祝 辞

奥村啓子 沖縄県福祉保健部長



新垣哲先生の旭日双光章の受章祝賀会が開催されるにあたり、ごあいさつを申し上げます。

新垣先生、この度の栄えある受章、誠にめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

この「旭日章」は国家又は公共に対して功労がある者のうち、功績の内容に着目し顕著な功績を挙げた者に対して授与されるものであります。

新垣先生におかれましては、全日本病院協会常任理事をはじめ、全日本病院協会沖縄県支部長、沖縄県医師会副会長、那覇市医師会理事としての御功績や、那覇市救急診療所の前身である公設民営救急センター設立への関わり、長期にわたる西武門病院での実績や学校検診の対応が、本県の保健・医療・福祉の向上や発展に大きく貢献し、この度旭日双光章、保健衛生功労として授与されたものであり、その御功績に対し深く敬意を表します。

また、沖縄県医療審議会の委員も歴任され、本県における医療を提供する体制の確保に関する重要事項等を調査・審議していただきました。感謝申し上げます。

沖縄県においては、「安心して暮らせる保健医療の充実」を図るため、健康づくり運動を推進するとともに、医師等医療従事者を養成確保





し、患者・利用者の視点に立った医療の確保や予防対策の推進並びに地域医療の質の向上と切れ目ない医療提供体制の整備に取り組んでおり、今まで以上に県医師会をはじめ関係者の皆様と連携・協力し、総合的な保健医療体制の確立に努めていきたいと考えております。

今後とも一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、栄えある表彰を受けられました新垣先生のますますの御健勝と御活躍、沖縄県医師会の御発展並びに会場の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

**真栄田篤彦 那覇市医師会長**



新垣哲先生、旭日双光章受章まことにめでとございます。

本日、祝賀会が開催されるにあたり、那覇市医師会を代表して、一言祝辞を述べさせていただきます。

先ほど紹介がありましたように、先生は那覇市医師会理事を2期4年、沖縄県医師会を6期12年余りの長きわたり医師会の会務運営、事業推進に多大な功績を残されました。

現在、新聞による本日の救急医療施設紹介欄には、約25の病院が紹介されております。いつでも、どこでも自由に救急医療が受けられる今日のシステムができるまでには、実に30年余りの年月を要しております。

先生は那覇市医師会救急担当理事として、在宅輪番当直制度・公設民営急病センター設立に多大な功績を上げられました。

特に本土復帰時の救急患者搬送は、所轄の警察署が担当していましたが、復帰翌日より市町村の消防署が受け持つ事となり、システムの大混乱が生じ社会問題となっていました。新垣先生は昭和47年、沖縄県、那覇市、那覇市医師会医で三者協議を立ち上げ、公設民営急病センターを設立させ、地域医療を守るべく、那覇市医師会全会員202名中、154名の先生方が輪番制で急病センターを運営されました。そのご苦

勞に深く敬意を表します。

新垣先生は昭和57年に西武門病院を開設以来、那覇市医師会では若狭班に所属されております。私も平成3年より若狭班に所属し、20年近くお付き合いをさせて頂いております。先生は古い習慣にとらわれることなく、常に斬新な企画を推進し実行する行動力を有しております。小さな事にこだわらない度量の広さと指導力、おおらかな人柄で「哲」先生と敬慕されております。

さて、西武門病院のホームページを観ますと「おしり一筋40年」というコピーと赤ちゃんのおしりの写真が飛び込んできます。おしりで悩んでいる人々を安心させることのできる先生のお人柄を感じる事ができます。また、今では一般家庭にも普及していますが、当時発売が始まったばかりの「ウォシュレット」を開院と同時に院内トイレにいち早く完備されたと聞いております。

結びになりますが、今後も「おしり一筋50年、さらに60年」

新垣哲先生のますますのご健勝とご活躍並びに会場の皆様のご健勝を祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

**新垣哲先生 謝辞**



皆様、本日は大変お忙しい中多数ご出席頂き、誠にありがとうございます。

去る5月12日皇居に参内して天皇陛下に拝謁し、暖かいお言葉を頂戴し大変喜んでおります。通常は配偶者でなければ同伴出来ないのですが、少々身体が不自由なため、杖代わりに娘

表 彰

を同伴することが許されました。

皇居というのは、堀の外側と内側では全く違うという点が第一印象でした。私の拙い言葉ではとても言い表せないほど、とにかく素晴らしく、五月の若芽がちょうど燃え盛る頃で、凛として静謐と言いましょうか、大変すばらしい所だと感じました。

皆様もご存じと思いますが、日本建築の粋を集めたような感じで、しかも簡素で暖かく、実に素晴らしいところだと思っています。

先ほどから、宮城信雄県医師会長、宮城敏夫全日病沖縄県支部常任理事、真栄田篤彦那覇市医師会長、奥村啓子県福祉保健部長には、色々お褒め頂いておりますが、実は何もやってきておらず、ただ業績だけが羅列されているようなもので、私自身は内心忸怩たる思いがあります。振り返ってみると、自分でも忘れていたことを以外なところで思い出す感じでありまして、そのひとつひとつに触れていくと話が長くなりますので、このぐらいにしておきますが、やはり医者というのは特殊な職業でありますので、ある意味では大変厳しい仕事だと思ってお

ります。しかし、これも役員をしたり会員の皆様に接して、そのひとつひとつが勉強になり、先生方と親しく付き合うことによって自分が成長でき、大変勉強になりました。また、これからも勉強に励みたいと思います。

本日は私は呼ばれた身であり、自分でお金を出した訳では無く、皆さんにご馳走になっているわけですが、そういう意味では大変楽な気持ちであります。

言い忘れましたが、このタキシードは約15年前に娘の結婚式の際に着けて以来で、それ以来ずっとクローゼットの中に仕舞っていたんですが、先日、出して着けてみたら以外と着られたので、そういう意味では当時と今とはそんなに体型が変わっていないのではないかと考えております。

これからも志は高くもって常に生涯現役の気持ちで益々頑張っていきたいと思っております。

先生方のご多幸を切にお祈り申し上げ、私の拙い挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

